

2025年度 9月 1日



オ リ ー フ 通 信

主は羊飼、わたしには何も欠けることがない。

詩編23篇1節

神愛保育園

「9月をおかえて」

今月も夏の酷暑がまだまだ続くと予想されています。通常ならばこれからの季節、残暑が残るものの、日差しが和らぐことを感じ、吹き始めた気持ちよい秋の風を受け、公園や川沿いをお散歩したり、運動会の練習を行います。しかし、気温の高い日が続くと、園外に出る回数も減る場合があります。暑さにより、急遽活動が変更することもあります。熱中症予防も含めての変更ですので、ご理解頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。今後、暑さを含めた環境の変化に対応するためにも、来年度以降の夏の保育活動の内容や行事日程など検討していくことが必要だと考えています。

さて、先日江東区の公私立幼稚園、公私立保育園と小学校の先生が集まって幼児教育と小学校教育の円滑な接続についての研修がありました。ここ10年くらい前から、江東区では保幼小中の連携という形で、年長児が小学校で安心して学ぶことができるようにと、年長児の小学校の交流をはじめ職員同士の交流、研修が進んできました。そして数年前から、子どもに関わる大人が立場を超えて年長児から小学校1年、2年生をつなぐ学びの連続性「架け橋教育プログラム」として主体的・対話的で深い学びを保育の計画の中にも位置付けることが掲げられてきました。今回、昨年度の中央教育審議会そして、12月の大臣諮問という形で教育課程の基準の改訂を受け、この主体的・対話的で深い学びを行う教育を江東区で幼児教育に関わるものが意識的に行い、導入していくということの方向性を確認しました。

子どもたちを取り巻くこれからの社会の状況、これから子どもたちが活躍する2040年代を考えた時、幼児教育・初等教育の役割は非常に大きいと考えます。特に、幼児教育の中での「遊び」という環境は、子どもの一生の土台の基礎となり、学びの芽が育つためにも非常に重要でその中で「体験」すること「表現」「気づき」の繰り返し、積み重ねが、子どもの資質・能力の育成に関わっていくことが研修の中でも話されていました。園では、「遊び」や「子どもの主体性」を大切にしています。しかし、残念なことに小学校の場でその連続性が途切れてしまうことを実感していました。今回の教育課程の改訂では、この接続期の連携を導入・実践していく方向が示されています。これを受けて、園でも、「学び」のための「遊びの環境づくり」を今まで以上に実践していくことが求められていると感じています。

この研修の中で、20歳代社会人難関突破者(難関大学突破・難関資格取得・スポーツ芸術などの活躍者)1040人の子育ての特徴の具体例が挙げられました。子ども時代の特徴は3つあり①思い切り遊ぶ②思いや意欲を大切にして遊ぶ③好きなことに集中して取り組むだそうです。今後の保育の参考にしたいと思います。保護者の皆様にも参考になりますでしょうか？

神愛保育園園長 鵜澤由記子



食事だより

収穫した夏野菜で、餃子ピザを作りました！



餃子の皮にピザソースを縫っています



真剣な表情です！



野菜をトッピングしています



なす・おくら・コーンをお好みで♪



← 自分の分は3枚 ↓ 年中さんの分も作ったよ



餃最後にたっぷりのチーズをのせて、出来上がり！

食事の時間に

みんなでおいしく食べました！



今年度は夏野菜をたくさん収穫することが出来ました。ピザには使っていませんが、おなじみの枝豆やすいかも採れて、味わう事ができました！猛暑の中、しっかりお世話を頑張ってくれた子どもたちに感謝です。来年もたくさん実って、食育につながることを期待しています。

私の好きなメニュー【その①】

※職員の好きな食事のメニューを聞きました！

☆ 北原 晶子(調理) 神愛歴9年 ☆

①あちゃら漬け：あちゃら？初めて聞いた時はかわいい献立名だなあと思いました。かぶ、にんじんきゅうりと塩昆布で和えるだけなので、簡単に自宅でも作れますが、スーパーで売っている塩昆布では園の味にはなりません。築地の吹田商店の塩昆布を使っているの、それがおいしいのだとわざわざ築地に買いに行き作り、同じ味を堪能しています！

②〇〇カレー：神愛保育園では、ほぼ月1回カレーが出ています。カレーライスの他に、ホワイトカレー、季節ごとの野菜カレー、シーフードカレーなどレパートリーが多いので何回食べても飽きがこないです！奄美大島からカレールゥを取り寄せていて生協のカレーとブレンドしています。子どもたちもいつもたくさん食べてくれるので、どのカレーが好きなのか気になります。



8月は上旬から高温が続き猛暑となり、熱帯夜の日も続きました。また40℃に迫る酷暑日もありました。そんな中、天候や水温の条件を見ながら、プールやシャワーの活動を行いました。体調管理の難しい厳しい気候で、疲れが出てくる頃です。園でも水分補給や休憩をとるなど、暑さ対策に気を配っていきます。9月も残暑が厳しいとの予報が出ています。引き続き、注意していきましょう。



【気になる感染症】

8月のおたよりでもお伝えしましたが、百日せきの流行が続いています。3月中旬から全国的に流行が始まり、未だ収まらないのは異例の長い流行と言えます。風邪症状から始まり、咳が増強するときには医療機関を受診しましょう。また高温多湿が続いていることから、夏の感染症も未だ続いているようです。なかでも眼に関する疾患に注意が必要です。咽頭結膜炎（プール熱）は高熱から始まり目や二や結膜炎症状が出ます。流行性角結膜炎（流行り目）眼の症状が主で、発熱は伴わない場合もありますが、感染力が極めて強いので注意が必要です。この3つの疾患は治療後に登園される時意見書が必要となります。

【手洗いのお話し】

8月4日もも組で手洗い指導をしました。まずは大人が流水で手を洗う→石鹸を付ける→手のひらを洗う→手の甲を洗う→指の間を洗うの順で手洗いをしました。その後、子どもたちが実際に手洗いをしました。小さな手をいっぱい広げて、手洗いを見せてくれました。まずは習慣づけることを目的としてのお話しでした。



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



暦の上では秋なのに、外に出ればまだまだ汗ばむ日々！秋の訪れはいつになるのでしょうか。



今年の夏も暑い日が続き、ひだまりの水遊びやプールには涼を求めた親子がたくさん来園してくれました。ひだまり玄関前では噴水マットを活用し、バケツやじょうろ、水鉄砲などで遊びましたが、噴水マットの中央に座り落ちてくる水に歓喜をあげて楽しむ姿も見られました。

風も通り日陰となるもも組前のテラスで大きなプールにも入り、たくさん楽しめた夏になりました。

9月27日(土)10時10分より、ひまわり組にて土手浩恵氏（日本マタニティフィットネス協会認定）による「ベビーマッサージ」父親講座を実施します。お父さん・お母さんご家族揃ってのご参加をお待ちしています。もちろん、ママとお子さん・パパとお子さんのペアも大歓迎です。興味のある方は担任、又はひだまりスタッフまでお声掛けください。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2025年8月19日（火） 天気 晴れ たんぽぽ組（1歳児）

「あそびの個性」

今日は室内で新聞遊びをした。以前夕方の時間にも新聞遊びをしたことがあるが、その時よりも指先の使い方が器用になったり、力が強くなっていることを感じた。ビリビリ…と長い線をちぎることができていた。細長くちぎった新聞紙を見たAが「へびさん!」と言ってクネクネした動きを表現していた。Bには、新聞紙で作ったブレスレットをプレゼントした。Bは嬉しそうに自分の手首についているブレスレットを見ていた。Cは細長い新聞紙を保育者の所へ持って来て、自分と保育者で両端を持ち引っ張り合いを楽しんだ。ちぎる意外の遊び方を、保育者のちょっとした提案で、子どもたちの遊びが広がっていく様子を見ることができた。これからも新聞紙などの、身近だが保育室にはない素材に触れる・遊ぶ機会を作っていきたいと思う。

この日誌は、たんぽぽ組のお部屋の中で新聞紙あそびをした様子が掛かれています。指先も器用になり長くちぎることもできるようになっているようです。

Aは、長細くちぎった新聞紙をみて蛇を連想したのか「へびさん」と言って、体を使って表現していました。Cは今までの遊んだ経験からか、新聞紙の両端をもって引っ張り合いをしようと保育者のところへ行き楽しんでいました。Bには、ブレスレットだよと保育者が手首に乗せて渡すと、お家の方がしているブレスレットを知っていたのかかもしれませんが、Bは嬉しそうに手首に乗せている新聞紙を見ている姿がありました。子どもたちは同じ新聞紙でもそれぞれみたてるものが違い、また発想の豊かさにも驚かされた出来事でした。

イメージする力(みたて)が生まれ始める時期は、言葉が豊かになり、見通しが持てるようになる時期と重なっています。1歳児の子どもは、自分に起こった出来事を自分の中にとどめ、それをイメージとして蘇らせることができるようになっていきます。同じ遊びの中でも、生活経験や印象に残った出来事などによって一人ひとり思い描くイメージは異なり、個性的でユニークです。

この先も様々な素材や物に触れられるように環境を準備して、子どもが自由にイメージしている世界に寄り添い、一緒に面白がりながら関わっていきたいと思います。そのような関わりの中で子どもたちの想像力、発想力また友だちや大人とのやり取りの中で更に言葉が豊かになり、社会性が育まれていくのでしょうか。



2025年8月21日(木)

天気 晴れ

ひまわり組(4歳児)

「一緒に遊びたかったけど・・・」

AがBに「一緒に遊ぼう!」と誘う。Bは「やだ!」と断ったがAはずっとBの後ろに付いて歩いている。Aが何度も「一緒に遊ぼう!」と声をかけて誘うがBは嫌だったようで無視をしていた。その時、突然Bがおもちゃ棚からトランプを持ってきて机に置き、そのままトイレに行った。その間にAがトランプを片づけていたので保育者が「なんでBが持ってきたトランプを片づけてるの?」と聞くと「だってBが『片付けといて』って言ってたから・・・」とAは答えた。保育者がBに話を聞くと悪いことだとわかっているからか、何も話してくれなかった。Bに「自分で持ってきたものをお友だちに片づけてもらうのは違うと思うよ」と話し、Aに対しても、「全部Bの言う通りにしなくても良いんだよ」と伝えた。Aを見ていると、言われたことを全部やってしまうことが多い。「嫌なことは嫌って言っていいんだよ」と声を掛けるようにしている。Bは(悪いことだと)わかっているが、Aに対してよくお願い事している姿がある。お互いの関係は、平等だということを理解してもらえよう。今後も話をつづけていく。

4歳児ひまわり組の日記です。年中クラスになるとお友だちが大好きで、大事になってきます。お友だちと遊びたい、真似をしたい、同じ空間にいたい、同じものを持ちたい・・・等々です。しかし、4歳児は、4歳と5歳の子どもたちが混在しています。乳児期とは違いますがクラスの中の月齢の差がとても大きく表れるときで、お友だち関係も月齢の違いで、時には難しくなるようです。特に、「他者は自分と異なる」ということ、他者と自分の視点の違いが理解できるようになってくる時期が4歳児です。他者の視点に立つということは、違う見方があるということで、相手の気持ちになるということではありません。そのため、「思いやり」を持つなどの気持ちはまだまだ難しいのです。AとBの月齢の差はとても大きく、そのため、他者の視点に立つことにも大きな差があるようです。Aにとっては、まだまだ自分の視点でのみ考えており、Bに至っては、次の段階である「人は感情を隠したり、本当の感情とは違う表現をしたりもする」ということを理解し始めているようです。大人の視点からでは、Bは「意地悪さん」と見えてしまい、周りの大人も、「他人の気持ちを考えなさい」「お友だちには優しくしなさい」と言いがちです。しかし、ABともにこの時期には、言葉でのコミュニケーションすることを育てることがとても大切です。「自分の要求や意見は言葉でいう」「他人の要求や意見を言葉で聞く」「感情を言葉で表す」。お友だちに関心と興味がいっぱいな時期だからこそ、言葉でお互いの自己主張を伝え合う関係を発展させてほしいと思います。



～絵本紹介～



朝夕の空の色や肌に触れる風に、どことなく季節の移り変わりを感じる頃となりました。
過ごしやすい季節にぜひご家庭で楽しい時間が送れますように季節を感じられる絵本を紹介します。



① 「きのみのケーキ」

作：たるいし まこ 出版社：福音館書店

「もりのおくりもの」シリーズの秋バージョン。たぬきは森でひろった木の実でケーキをつくり、きれいにできたので森の仲間を呼びにいけます。ところが、戻るとケーキが消えてしまっていたのです！さあ大変！秋のケーキを作りたくなる、ほっこりとしたイラストも大人気です。



② 「もりのかくれんぼ」

著：末吉 暁子 絵：林 明子 出版社：偕成社

公園で遊んだ帰り道、ケイコはいじけた様子でお兄ちゃんの後ろを歩いています。ケイコはかくれんぼをしたかったのにお兄ちゃんと友達とはボール遊びばかりしていたのです。

お兄ちゃんを追いかける途中で、幼いケイコは見知らぬ森に迷い込み、動物たちと大好きなかくれんぼをします。抜群に楽しいかくし絵の絵本。



③ 「あきぞらさんぽ」

作：江頭 路子 出版社：講談社

えがしらみちこさんの「おさんぽ」シリーズの5冊目！読んだあと、外へお出かけしたくなると大人気のシリーズです。女の子が、大好きなどんぐりを見つけ、とんぼを追いかけて、真っ赤な落ち葉のプールにどぼーん！ドキドキするような美しい景色の連続です。きっとおさんぽが大好きになっちゃう1冊です。

